房日新聞　2019.5.2付

寄稿

海とアートの学校 まるごと美術館

館山　池田　恵美子

古くから多くの画家が来遊し名画を描いたことから、館山市布良は「美術界の聖地」と呼ばれています。今年のゴールデンウイークの10連休には、旧富崎小学校の空き校舎を活用し、「海とアートの学校まるごと美術館」を開催しています。

布良の海を愛した画家たち「青木繁・寺崎武男・倉田白羊」の複製画や原画を展示し、地域の魅力や誇りを再発見する企画です。入場無料で、毎日お楽しみイベントやバザー、フリーマーケットなども出店します。ぜひご来場し、誇れる安房の文化をお味わいください。

青木繁（あおきしげる）

1904年夏、東京美術学校（現東京芸術大学）を卒業した青木繁は、友人や恋人の福田たねと布良を訪れ、40日にわたり小谷家に滞在しました。神話に造詣の深かった青木は、海や神話をテーマに多くの作品を描きました。

なかでも、西洋画として日本最初の重要文化財となった『海の幸』は、布良崎神社の神輿がイメージソースとなって描かれたと考えられています。もう1作の重要文化財である『わだつみのいろこの宮』は、布良の潜水体験から構想し3年がかりで完成したと国民新聞に寄稿しています。

主催の「青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会」は、富崎幼稚園の廃園を契機に地域活性化を目指して設立され、NPO法人安房文化遺産フォーラムが事務局を担っています。その後、小谷家住宅は館山市指定有形文化財となり、保存・活用に賛同した全国の著名な画家の皆さんとともに、館山市ふるさと納税を通じて保存基金を集めました。

修復を終えて、青木繁「海の幸」記念館としてオープンし、3周年を迎えました。市民ボランティアによる民間運営のため、通常は毎週土・日曜日のみ見学日ですが、GW期間中は毎日開館しています。

布良在住で特殊印刷技術を有する島田吉廣氏が制作した青木繁の複製画5作品は、期間中「海とアートの学校まるごと美術館」の会場（旧富崎小学校）に展示されます。なかでも、迫力ある玄界灘の海を描いた遺作『朝日』は、このたび佐賀県重要文化財に指定された作品で見ごたえ十分です。

寺崎武男（てらさきたけお）

青木繁より3年遅れて1907年に東京美術学校を卒業した寺崎武男は、農商務省実業講習生としてイタリアに留学し、フレスコ画やテンペラ画、エッチングなどの多彩な技法を学びました。版画家の山本鼎らと日本創作版画協会を設立するとともに、壁画、版画、テンペラ、エッチング、水彩画、油彩画などさまざまな技法を研究し、日本美術史に大きな影響を与えました。

日本人初のヴェニス・ビエンナーレ国際展に入賞し、法隆寺の金堂壁画が焼失したために国宝の輪堂に壁画を描き、明治神宮の聖徳記念絵画館には『軍人勅諭下賜ノ図』が収蔵されています。

先に移住していた彫刻家・長沼守敬（ながぬまもりよし）を慕って館山を訪れるうち気に入って別荘を建て、スケッチに来遊し、その後館山に定住。戦後は、旧安房第一高校（現安房高校）から美術講師として、館山の若者たちに芸術の大切さ伝えました。

安房開拓神話に惹（ひ）かれ、安房神社や諏訪神社（館山市波左間）、下立松原神社（南房総市白浜町）などに多くの神話作品を残し、とくに布良崎神社（館山市布良）には鳥居型に額装した『天富命布良上陸』などが奉納されています。

このたびご遺族から多数の作品を寄贈されたので、神話シリーズのほか戦争と平和など約40点を公開します。6号の原画をもとに拡大模写された巨大な舞台幕『ヴェニスの一夜』や、回顧展に寄せられた三島由紀夫のメッセージなども展示しています。

また、スケッチなども描いてある手帳には、青木繁や横山大観などに関わる記述もあり、調査を進めているところです。東西の文化の融合を願い、画材や技法を緻密に研究し、精力的に作品を制作していた様子が明らかになってきています。

倉田白羊（くらたはくよう）

日本近代洋画の先駆者・浅井忠の親戚にあたり、早くから指導を受け、1901年に東京美術学校を卒業しました。学生時代より房総を来遊し、1910年、写生旅行中に根本村（南房総市白浜町）の小谷英子（こだにひでこ）と出会い、結婚しました。館山に居住し、富崎小学校はじめ安房の児童自由画教育に尽力し、千葉師範学校（現千葉大学教育学部）でも研究会を開催しました。

自由画教育の先駆者である山本鼎（かなえ）に招かれて長野県上田市に移住し、日本農民美術研究所の副所長として活躍しています。その後も、全国で自由画教育を実践しました。今でも佐倉市立美術館には、倉田の指導した児童たちの自由画作品が収集されています。

また、森田恒友や山本鼎、坂本繁二郎らが発行していた美術雑誌『方寸』第5号では、倉田夫婦が青木繁追悼特集の編集にあたりました。妻の英子にとっては、隣村の布良で、旧姓と同じ小谷家に滞在した青木繁は、少なからず縁深く感じたに違いありません。

英子の兄は、米国モントレー湾域に渡ったアワビ漁師の小谷源之助・仲治郎です。仲治郎の旧宅（南房総市千倉町）には、倉田の描いた襖絵が残されており、今回の学校まるごと美術館で公開しています。

（青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会）

毎日のお楽しみは次のとおり。

▽2日＝健康相談（午後0時半）太極拳講習会（1時半）

▽3日＝剣がつなげる2020PT（午前11時半）殺陣演舞by魂刀流南総青剣会（午後1時半）

▽4日＝神話の浜ウオーキング（午後1時半）

▽5日＝手品&紙芝居「八犬伝」（午後1時半）

▽6日＝歌by え～ごろ♥バーバンズ（午後1時半）